株式会社日本格付研究所
Japan Credit Rating Agency,Ltd.

26-D-0864
2026 年 10 月 29 日

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

尼崎信用金庫（証券コード:ー）

【据置】
長期発行体格付　　A
格付の見通し　　安定的

■格付事由

(1) 兵庫県尼崎市に本店を置く資金量2.9兆円の大型信用金庫。尼崎市内でトップの預貸金シェアを有するほか、大阪府内にも多くの店舗を展開している。格付は、地元での堅固な事業基盤、保全や分散の効いた貸出資産の質、リスク対比で充実した自己資本などを反映している。預貸金残高は安定推移しており、収益力は改善傾向にある。一方、市場部門で抱えるリスクは大きく、保有債券の評価損が膨らんでいる。リスクアセットも拡大傾向にあるため、引き続き、良好な資本充実度を維持していけるかに注目していく。

(2) 収益力の向上は課題であるが、改善傾向にある。ROA（コア業務純益ベース）は0.3%とAレンジの地域金融機関としては低いものの、国内金利の上昇で利ざやが拡大しているため、上昇傾向にある。コア業務純益（投信解約損益を除く）も増益基調にあり、26/3 期は預金利息と経費が増加したが、貸出金利息の増加と余資運用収益の改善で打ち返した。今後については、預貸率が低く、預貸金利回り差の改善幅が小さいことから、預貸収支の反転増加には時間を要するとみられる。人件費の水準引き上げやシステム投資で経費も増加していく見通しであるが、余資運用収益の拡大が支えとなり利益水準と収益性は高まっていくと JCR はみている。

(3) 貸出資産の質は一定の健全性が保たれている。金融再生法開示債権比率は 26/3 期末で 5%台半ばと事業性貸出が多い点を考慮しても、信金平均を上回るやや高い水準で推移している。しかし、保証協会保証付融資の活用などで開示債権の保全率は9割を超えている。分類率が比較的低位にある上、大口集中リスクの懸念も小さい。与信費用は増加傾向にあるものの、貸出残高対比では抑制されており、今後も多額となる可能性は小さい。

(4) 預証率は約 4 割と高く、市場部門で抱えるリスクは大きい。円建債券のデュレーションを短期化しているが、資本対比でみた金利リスク量は依然としてやや大きい。投資信託の運用では、投資対象の分散やベア型ファンドの活用などにより相関を効かせているが、保有残高が多いため価格変動リスクが大きい。円建債券の評価損が膨らみ、その他有価証券全体で比較的大きな評価損となっている。

(5) 資本充実度は高い。JCR が中核的と評価する調整後連結コア資本比率は 11%台とAレンジの地域金融機関としては良好な水準を維持している。しかし、資本の蓄積速度に照らしてリスクアセットの拡大ペースが速いため、調整後の資本水準は低下傾向にある。今後もバーゼルⅢ最終化の完全実施に向けてリスクアセットが押し上げられるほか、債券の評価損が膨らむ可能性などに留意する必要がある。

（担当）加藤　厚・木谷　道哉

■格付対象

発行体：尼崎信用金庫

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A	安定的

Copyright © Japan Credit Rating Agency, Ltd. All Rights Reserved.

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. **信用格付を付与した年月日**：2026 年 10 月 26 日
2. **信用格付の付与について代表して責任を有する者**：宮尾　知浩
   主任格付アナリスト：加藤　厚
3. **評価の前提・等級基準**：
   評価の前提および等級基準は、JCR のホームページ（https://www.jcr.co.jp/）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014 年 1 月 6 日）として掲載している。
4. **信用格付の付与にかかる方法の概要**：
   本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCR のホームページ（https://www.jcr.co.jp/）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024 年 10 月 1 日）、「銀行等」（2021 年 10 月 1 日）として掲載している。
5. **格付関係者**：
   （発行体・債務者等）　　尼崎信用金庫
6. **本件信用格付の前提・意義・限界**：
   本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
   本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関しての JCR の現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
   本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCR が格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. **本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者**：
   ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
   ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. **利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要**：
   JCR は、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. **格付関係者による関与**：
   本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. **JCR に対して直近 1 年以内に講じられた監督上の措置**：なし

■**留意事項**
本文書に記載された情報は、JCR が、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCR は、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCR は、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCR は、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCR の格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCR の格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCR の格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCR が保有しています。JCR の格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCR に無断で複製、翻案、改変等をすることは禁じられています。

■**NRSRO 登録状況**
JCR は、米国証券取引委員会の定める NRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の 5 つの信用格付クラスのうち、以下の 4 クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則 17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示は JCR のホームページ（https://www.jcr.co.jp/en/）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■**本件に関するお問い合わせ先**
情報サービス部　　TEL：03-3544-7013　FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所
Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者　金融庁長官（格付）第 1 号
〒104-0061 東京都中央区銀座 5-15-8　時事通信ビル

Copyright © Japan Credit Rating Agency, Ltd. All Rights Reserved.